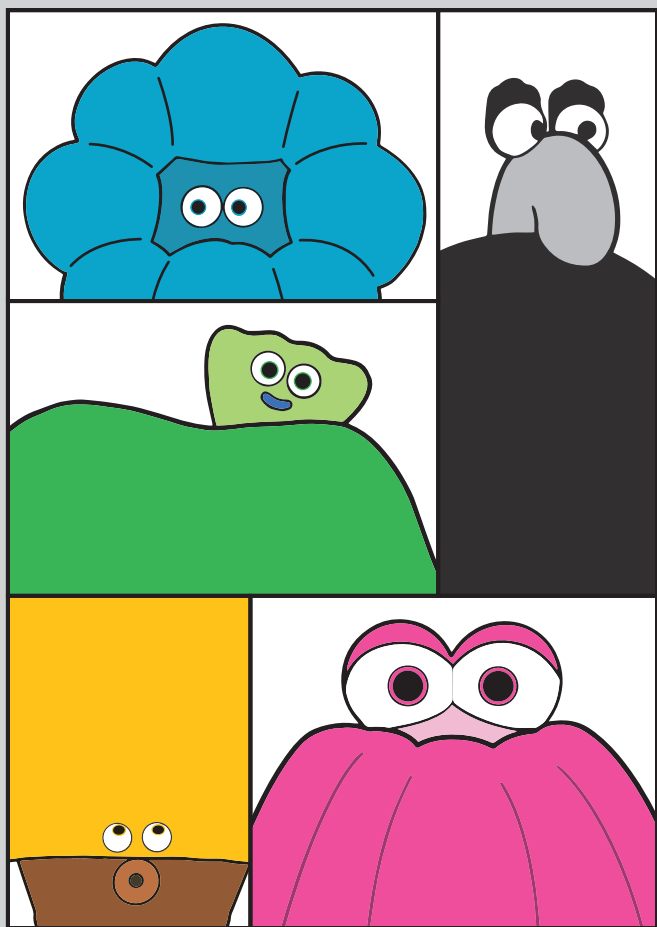


KISARAZU CONCEPT STORE



2024 12

TABLE OF CONTENTS

KISARAZU CONCEPT STORE って？

- 01 私たちが目指すこと
- 03 サステナブルな店づくり

新たなサイクルを一緒に生み出すパートナーたち

- 05 KCSの3つのパートナー
- 07 ブランドパートナー
- 15 カスタマーパートナー
- 19 ストアパートナー
- 21 産学連携
- 23 地域連携
- 24 木更津市教育委員会教育長 インタビュー

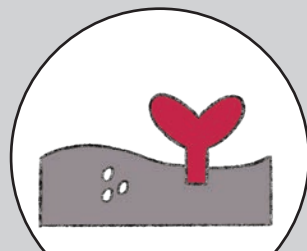
取り組みの発信

- 28 CHANGE THE CYCLE REPORT
- 29 メディア掲載実績 / 視察・授業実績
- 30 未来に向けて

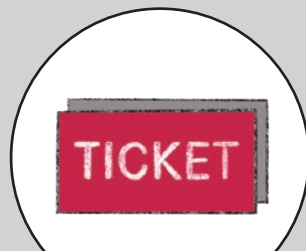
私たちが目指すこと



お客様に出会えなかった洋服に
新たな道筋を



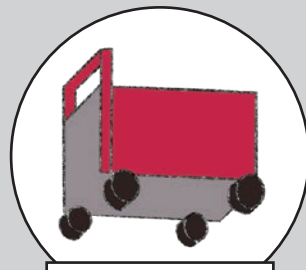
残った商品もさまざまな技術により
肥料や燃料、素材等として
生まれ変わらせる



入場料（¥300）を支払って店内へ
※一部はコントリビューション先へ協賛



アップサイクル品の制作販売



まだ光の当たっていない
商品がお出迎え



お気に入りの洋服と
出会ってもらうための仕掛けあり

新たな服のサイクルを生み出す実験場。
倉庫に眠る服に光を当て、
これまでにない商流を作り出す。

KCSは、これまでの商流ではどうしても届けきれなかった規格外品やデッドストック品などの服に光を当て、新たな買い物体験を提案するとともに、環境負荷に配慮した新素材やアップサイクル商品、新しいものづくりの技術を紹介するなど、ファッション業界の未来を考えながら新たなサイクルを生み出す実験場です。

まだ誰も袖を通してない洋服たちに光を当て、まずはそのまま届くべき人に届けること。それでも届けきれない残布や洋服をアップサイクルしたり、さまざまな技術により別のものへ生まれ変わらせることで、新たな価値を付与し、違う使い道を創造します。

また、社会課題を解決するための取り組みを行っている企業・団体を応援すべく、入場料およびお買い上げいただいた商品代金の一部を協賛します。

サステナブルな店づくり 内装工事リサイクル率100%達成

内装の設計施工では、船場の「エシカルデザイン」の知見を活かし、サステナブルな店として空間づくりにおいても新たなサイクルを生み出す取り組みを実施。内装設計・施工:株式会社船場

将来的な マテリアルリサイクルを 考慮した設計

設計段階から、将来起こりうるリニューアルや廃棄を想定し、マテリアルリサイクルしやすいよう、単一の素材を用い、ばらしやすい造作や什器の計画を行った。LGS壁や木単管、波板などの建設資材をそのまま仕上げ材として使用。



エシカルマテリアル*の活用



再利用が難しい古紙と廃プラスチックをリサイクルした合成木材や、古い建物を解体した古煉瓦などのエシカルマテリアルを活用。

*エシカルマテリアル：
船場独自の選定基準と視点で集めた、未来にやさしいマテリアル。

アップサイクルチェア

廃棄予定の衣類などをアップサイクルしたチェアを制作してレストスペースに配置。



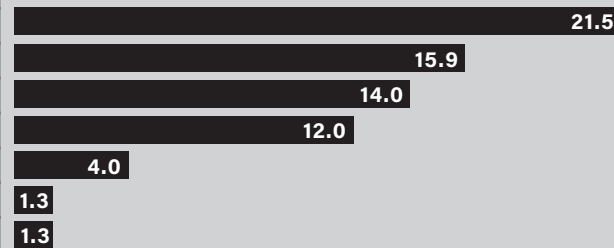
ゼロウェイストな内装施工

中間処理会社との連携のもとゼロウェイストを目指し、内装工事で発生する廃棄物のリサイクル率100%を達成。

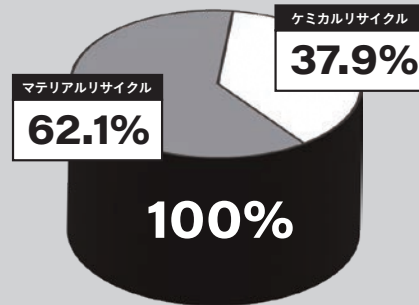
処理委託期間：2023年1月10日～2023年5月31日
排出量：70.0m³
マニフェスト交付数：23枚

品目別排出量

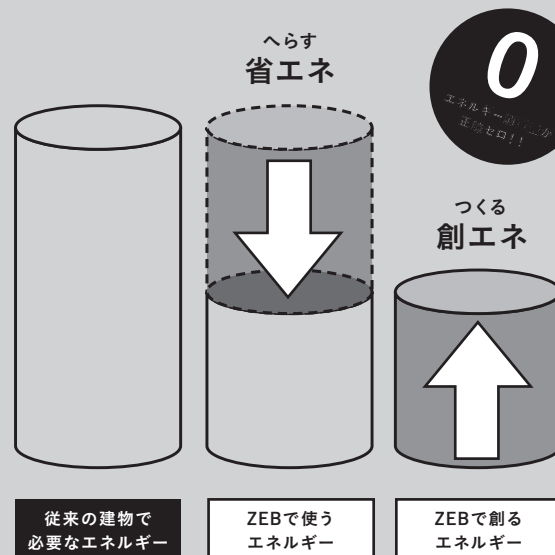
品目	m ³
金属くず	21.5
廃プラスチック	15.9
紙くず	14.0
石膏ボード	12.0
ガラス陶磁器	4.0
木くず	1.3
繊維くず	1.3
合計	70.0



表：船場にて作成



BELS 評価にて最高ランク「ZEB」認証を取得



KCSは、900枚超の太陽光パネルの設置によりオンサイトでのエネルギー創出に取り組んでいます。また、外皮性能を高めるほか、連続したのこぎり形状の屋根を採用することによりハイサイドライトからの自然採光を取り入れるなど、省エネに資する取り組みも行いました。このような省エネおよび創エネの取り組みにより、施設の設計一次エネルギー消費量を100%以上削減し、BELS (建築物省エネルギー性能表示制度)に基づく評価にて、最高ランクである「ZEB」認証を取得しています。

KISARAZU CONCEPT STORE PARTNER

ものづくりブランド、技術開発・研究機関、生活者とともに目指す CHANGE THE CYCLE
各パートナーとの取り組みをご紹介します。

BRAND PARTNER



商品を提供するものづくり企業
(ブランドパートナー)

倉庫に眠っていた洋服たちに光を当て、
そのままの形で生活者に届ける

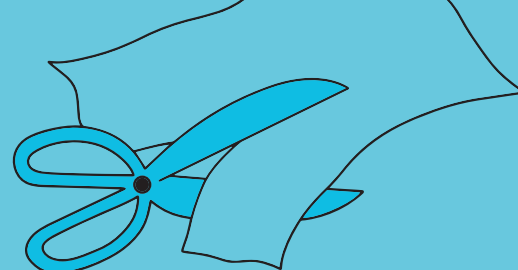
CUSTOMER PARTNER



ファッションを楽しむ生活者
(カスタマーパートナー)

KCSでお買い物を楽しむことそのものが
新たな服のサイクルを生み出す一助に

STORE PARTNER



課題解決に取り組む企業・団体
(ストアパートナー)

端材提供、不要になった店舗什器の提供、
ワークショップコンテンツ提供、コントリ先としての参画など

KISARAZU CONCEPT STORE



倉庫に眠るアイテムが続々と集まる
200 Brands 500,000 Items

KCSのコンセプトに共感していただいている企業は100社を超え、累計200ブランド、50万点のアイテムがKCSに集まっています。(2024年9月現在)



情報発信の場としてのPOP UP

- ・アップサイクルサービスのご紹介
- ・KCSのアイテムを生かしたスタイリングのご提案
- ・サステナブルなものづくりブランドのご紹介
- ・KCSイベントとコラボレーションしたPOP UP



入口から始まる関与新しいサイクルを
応援する仕組み「コントリ」

コントリ (contribution) とは、社会課題を解決すべく新たなサイクルを生み出すための取り組みを行っている企業・団体を応援する仕組み。入場料およびお買い上げいただいた商品代金の一部をコントリ先へ協賛。



宝探しのワクワク感醸成！
4つの“しない”売り場革命

- ・過度な接客をしない
- ・ブランドやカテゴリー分けをしない
- ・試着の点数制限をしない
- ・返却台をあえて片づけない



不要な洋服を再資源化
「コントリ先」としての参画

不要になった洋服を肥料や紙、燃料などに生まれ変わらせる技術をもつ企業や団体が参画。FACTORY LABでの展示やワークショップを通じてお客様に新たなサイクルの選択肢を提示。



イベントやワークショップは
100回以上開催

端材や残反を使ったワークショップや洋服を長く楽しむためのリメイクワークショップ、産学連携のワークショップコンテンツなど、大人も子どもも楽しめるワークショップを定期的に開催。

112 Companies 200 Brands 500,000 Items



BRAND PARTNER

KCSのコンセプトや新たな服のサイクルを生み出すというビジョンに賛同し参画してくださっている企業や団体は112にのぼり、商品提供をしてくださっているブランドは200を超えています。2024年9月現在、累計50万点を超えるアイテムがKCSに集まり、日々お客様の手に渡っていきます。

参画企業一覧 (2024.9月現在)

ムーンバット株式会社	株式会社レスポートサックジャパン	合同会社 PVH ジャパン
オールスタイル株式会社	双日インフィニティ株式会社	lucifer research 株式会社
サイクルヨーロッパジャパン株式会社	株式会社アクリスジャパン	リシュモンジャパン株式会社
株式会社アマン	株式会社三陽商会	RSN Japan 株式会社
株式会社マッシュライフラボ	八木通商株式会社	株式会社ファーストカンパニー
MARK STYLER株式会社	株式会社コロニアスポーツウェアジャパン	有限会社ケイ・アール・エス
コロネット株式会社	株式会社バーニーズジャパン	フェラガモ・ジャパン株式会社
株式会社ビーズインターナショナル	株式会社 UNITED NUDE JAPAN	ヒロタ株式会社
タキヒヨー株式会社	株式会社ノーリーズ	Deckers Japan 合同会社
株式会社ベイクルーズ	株式会社ウールン商会	リチャードジノリ・アジアパシフィック株式会社
株式会社ビショップ	ボードライゲーズジャパン株式会社	株式会社ゴールドウイン
株式会社デンナム・ジャパン	ア・テストニジャパン株式会社	株式会社ハーレージャパン
株式会社イーストランド	A.P.C. Japan 株式会社	株式会社レリアン
ブルーベル・ジャパン株式会社	株式会社パロックジャパンリミテッド	キーン・ジャパン合同会社
OTBグループ	株式会社ADOORLINK	株式会社リンク・セオリー・ジャパン
ブーマジャパン株式会社	株式会社フランドル	株式会社ブチバトージャパン
株式会社ユナイテッドアローズ	株式会社AMBUSH	ブルーミング中西株式会社
株式会社ナルミヤ・インターナショナル	株式会社シップス	株式会社ビームス
株式会社ニューバランスジャパン	アッシュ・ペー・フランス株式会社	フェイラージャパン株式会社
マイケル・コースジャパン合同会社	株式会社ティムコ	株式会社メンズビギ
株式会社ストラスブルゴ	トゥミジャパン合同会社	株式会社オッジ・インターナショナル
株式会社豊田貿易	サムソナイト・ジャパン株式会社	カメイ・プロアクト株式会社
株式会社トゥモローランド	株式会社モダ・クレア	株式会社 AJIOKA
FASHION BOX JAPAN 株式会社	株式会社TSI	株式会社フィルム
Charles & Keith Japan 合同会社	アナデイス株式会社	株式会社スタイリングライフ・ホールディングス
株式会社ディティージェイ	株式会社アルページュ	ゼニアジャパン株式会社
株式会社ヘルノ・ジャパン	ギャップジャパン株式会社	アディダスジャパン株式会社
ヒットユニオン株式会社	フルラジャパン株式会社	株式会社MIKAGE SHIN
ラルフローレン合同会社	マークジェイコブスジャパン株式会社	株式会社ルネッタリア
COLE HAAN JAPAN 合同会社	イー・ジーニング	株式会社ウェルカム
株式会社 CA4LA	株式会社ビギ	株式会社ヒットマン
株式会社ラコステジャパン	カリマーインターナショナル株式会社	株式会社アクセスジャパン
株式会社マ・メール	グンゼ株式会社	コンバースジャパン株式会社
株式会社ユニオンゲートグループ	昭和西川株式会社	株式会社ヴェルサーチェジャパン
ジョルジオアルマーニジャパン株式会社	株式会社バパス	アックス商事株式会社
福助株式会社	株式会社アバハスインターナショナル	株式会社バリー・ジャパン
ヒューゴボスジャパン株式会社	株式会社アイジーエー	株式会社ジョイックスコーポレーション
アシックスジャパン株式会社		



INTERVIEW 1

株式会社ビギホールディングス
経営企画部 サステナビリティ推進担当 高橋利奈さん

洋服は洋服の状態で誰かの手に渡り着てもらうのが一番

廃棄は課題のひとつだったので、リサイクル、リセールなどさまざまな選択肢を検討していました。極力焼却廃棄を削減するために在庫をリサイクル業者に引き取っていただくこともあり、ある時リサイクル業者さんの工場を見学させていただいたんです。こだわりの詰まった洋服たちに目の前でどんどんハサミを入れられ切り刻まれていく光景を目の当たりにし、とても悲しい気持ちになりました。

改めて、やっぱり洋服は洋服として誰かの手に渡し、袖を通してもらいたいという想いが強くなっていて、KCSの話をお聞きし、ぜひ参画させていただきたいと思いました。

新たなお客様との接点ができることを期待しつつ 実験的な取り組みにも挑戦したい

KCSオープンタイミングで初めて店舗に伺ったときには、一人のユーザーとしてシンプルに楽しかったです。アウトレットモールとは違い、ブランドで選ぶのではなくモノで選ぶような陳列になっているので、自分自身がこれまで手に取ったことなかったブランドとの接点が生まれました。当社のブランドもそうやって新たなお客様との接点ができることを期待しています。また当社でも各ブランドごとにさまざまなサステナビリティにまつわる施策を行っている段階なので、KCSという場でそういった取り組みを実験的に表現するようなPOPUPなども挑戦できるといいなと妄想しています。

ドイツ・シュニール織のブランド「FEILER」のPOP UP。商品の製造工程においてどうしても出てしまう端材をアップサイクルし、KCS限定のオリジナルポーチや巾着を制作、数量限定で販売



情報発信の場としての

POP UP

石田製帽

ブランドの取り組み発信と
KCSのアイテムとの
スタイリングを生かした
売り場づくり

FEILER / 石田製帽 / Öffen /
COOHEM/ SRUE / PASS THE BATON



京都紋付

服を長く愛用するための
サービスのご提案

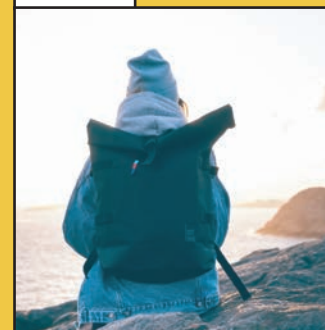
黒染めという選択肢「京都紋付」



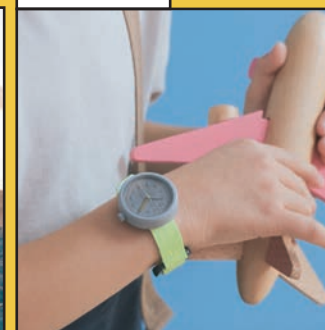
「SUSTAINABLE DEPARTMENT」

まだ知られてない！サステナブルなものづくりブランドのご紹介

GOT BAG



YOT WATCH



Pure Waste



初のPOPUP STOREとしてKCSイベント「服の文化祭」へ出店。

ユニテッドアローズのサステナビリティ活動
「SARROWS」

「SARROWS」の取り組み内容に関するパネルを展示



サンプル品、B品、リペア品をラックごとに展開



ユニテッドアローズとKCSのアイテムをミックスしたトルソーが10体。
ユニテッドアローズのスタッフによるコーディネートと、
スタイリングのポイントを黒板に。



残反を提供していただき、店内サインや、子どもたちが自由に
楽しめるキッズコーナーの端材として使用。

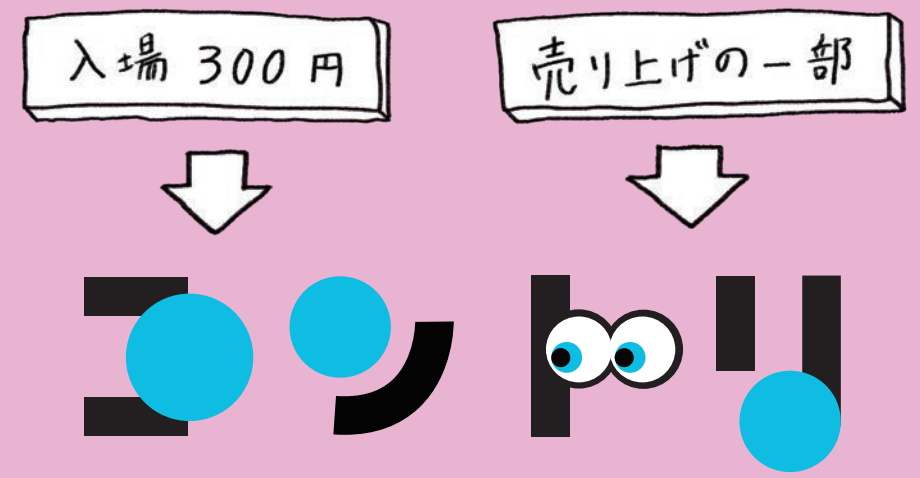


ユニテッドアローズのオウンドメディア
「ヒトとモノとウツワ」にてレポート記事公開中。

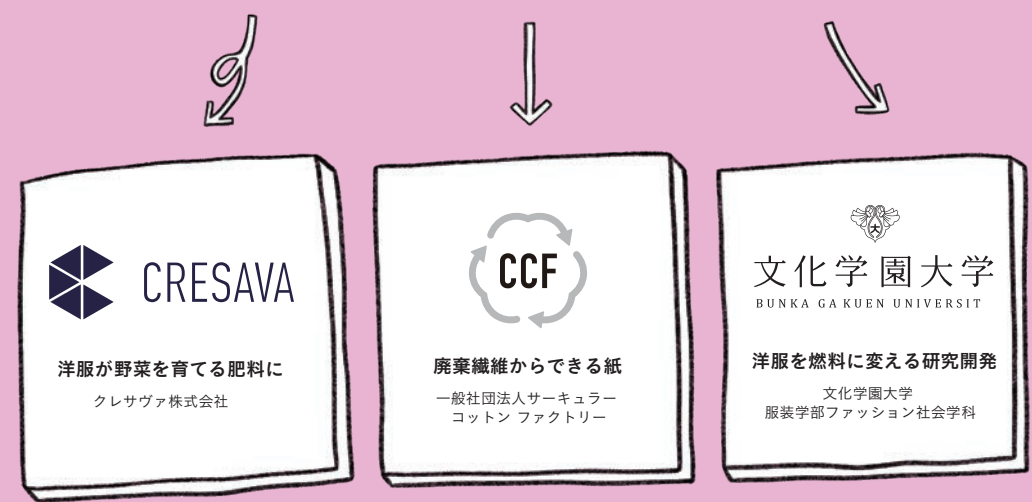


CUSTOMER PARTNER

カスタマーパートナーであるお客様が、KCSでお買い物や体験コンテンツを楽しむこと
そのものが、新たな服のサイクルを生み出す大事な一歩になります。入場料（コントリ）
をお支払いいただくことで、入口からすでに関与がはじまります。



コントリ (contribution) とは、社会課題を解決すべく、新たなサイクル
を生み出すための取り組みを行っている企業や団体を応援する仕組み



服との偶発的な出会いを創出する
“売り場革命”



SALES
FLOOR
REVOLUTION

宝探しのワクワク感!?

“4つのしない”

KCSに集まる服が1着でも多くお客様へ届くことが服のサイクルを促すためには重要だと考えています。そのために、とにかくたくさんの服に袖を通してもらうことを重視し、より自由に服を楽しめる仕掛けとして、4つの“しない”ことを決めています。

1

過度な接客をしない

過度な接客はせず、気になるアイテムを
どどんかごに入れてもらう新しい買い
物体験を。

2

ブランドや
カテゴリー分けを
しない

ブランドで探すのではなく、プロダクトと
しての洋服との偶発的な出会いを演出。

3

試着の点数
制限をしない
最高の試着体験を

何着でも試着可能、家族や友人と一緒に
入れる広い試着室もご用意。

4

返却台をあえて
片づけない

試着室そばにある返却台は、誰かが一
度気になったもの。その返却台から次
の方へバトンされることもしばしば。

イベントやワークショップ
100回以上開催!

STORE PARTNER

未来につながる選択を

お買い物だけでなく、ワークショップや体験イベントを通じて1着の服が出来上がるまでのものづくりの背景や手に取った服を長く楽しむための様々な選択肢、そして長く楽しんだ後の手放し方などをご紹介します。お客様一人ひとりの今の選択が、自分たちの未来、地球の未来につながることを考えるきっかけをご提供しています。

<ワークショップの一例>

- ・ 不要になった衣類から肥料作り体験～野菜とあそぼう～
- ・ 残布で作る世界に一つのアート“貼り絵”
- ・ シルクスクリーンで自分だけの1着をつくらう
- ・ 古着から鍋敷きや座布団を作ろう
- ・ 端材でつくるフォトフレーム

新技術の実証実験の場!
KCSは、新技術の実証実験の場としてもご活用いただいています。一般社団法人スマートフィルムデバイス協会は、商品の電子タグ情報収集実験をKCSにて実施、商品の動きを把握することで販売戦略に役立てるための開発を行っています。また、株式会社coordinateはファッション相談アプリ「coordinate」の実証実験をKCSの試着室にて実施しています（実施当時は株式会社Relicは株式会社NTTドコモとの共創にて展開）。

STORE PARTNER 一覧 (2024.10月現在)

クレサヴァ株式会社
一般社団法人サーキュラー コットン ファクトリー
文化学園大学 服装学部ファッション社会学科
株式会社スタイルエージェント
株式会社船場
パンタンデザイン研究所
木更津市
株式会社尚雅堂
オールドファッション株式会社
株式会社川東履物商店
山田紙管株式会社
ブルーミング中西株式会社
株式会社はらべこ
株式会社 SHINDO
株式会社フーズクリエイション
インクロッチェ株式会社
株式会社ワンピース
株式会社クラダシ
株式会社 エム・ビー・ティ
株式会社 アレグロ
株式会社バルック
ドローイングアンドマニュアル株式会社

小泉由美 (イラストレーター)
もちはもちや (沼田学写真事務所)
會本久美子 (イラストレーター)
NEEDLEWORK EVERYDAY
株式会社スマイルズ
カルデサック ジャポン
株式会社リパティジャパン
ZUMOT JAPAN
サステナふる株式会社
San-RISE
手作りジャム工房～IPPO～
3110 COFFEE LABORATORY
合同会社 HANAP
COEXIST
Native World 株式会社
特定非営利活動法人コミュニティワークス
ヤドカリ HOUSE
株式会社 HAPPY NUTS DAY
有限会社アラブジャパンインタープライズ
株式会社ボーダレス・ジャパン
株式会社 coordinate

産学連携

INDUSTRY-ACADEMIA COLLABORATION

文化学園大学や文化服装学院、バンタンデザイン研究所などの学校と連携し、ファッション業界やものづくりの未来を担う若い世代がサステナブルなものづくりやサーキュレーションの在り方を考えるきっかけづくりを行っています。

KCS内にてVMDを実践し学生たちがディスプレイした売り場やトルソーを展示したり、ファッション業界の課題とその解決の糸口についてディスカッションしたり、この場で服にまつわるワークショップを実施することで直接お客様との接点を持ち、新たな服のサイクルを生み出すことの意味を考える機会としてご活用いただいています。



INTERVIEW 2

文化学園大学 服装社会学研究室 熊谷伸子さん

「ファッションを考える場」としてのKCS

1年間のワークショップ実施を通じて見えてきたもの

KCSは、「ファッションを考える場」だと捉えています。様々なブランドの服が混在し、幅広い価格のものが並ぶ中、「このブランドの服はどのようにしてここにあるのか」「どうしてこの値段なのか」など、毎回、学生たちは服を通して、ファッション業界の不思議や疑問にまで考えを巡らせ会話をしています。

本学[ファッション社会学科(岡林ゼミ・熊谷ゼミ)]はKCSにて「ファッションと環境の関わりを考えてもらう」ためのイベントを毎月1回実施しております。当初は、学内の実習や実験で出た残布、回収した衣類の一部を使って、見栄えの良いものを作ってもらおうと企画しておりましたが、実施した学生たちの話や来場者の方の反応から、「残布ではなくその元の形を見てもらおうにしよう」「常に持ってもらえるものを企画した方が服を考える機会が増える」「小さいお子さんの体験者が多いので親子で使えるものにして服のことを話題にしておこう」「そもそも大量生産の今を考えなければいけないので、綿花を栽培しよう」など、学生たちは色々なことを思いつきます。華やかなファッションの世界の裏側には残布や端材があることを、知識ではなく実際に見て触って体験してもらうこと、また誰かとそれについて話すことが大事なのだと言っています。この楽しいファッションを、地球にも人にも優しい形で存在させていくための方法を考える学びの場がKCSなのではないかと感じています。



教育視点で見るKCSが「服育」の場になる未来

個人的には、今後、社会科見学などで多くの教育機関の方に来場していただき「服育」の場になればと考えます。環境問題はもちろんですが、小さいお子さんが沢山の洋服を試着し、その中から自分のお気に入りを選ぶ体験、制服で来場した生徒さんが制服と私服の意味を考えるなど、人と服の関わりを考えるのに相応しい施設だと思っています。

文化学園大学の取り組み

ファッション製品を作ると、「端材」や「余り布」がでます。製作実習や実験の授業においても同様です。本学ではこれを「残布(さんぷ)」と呼び、平成22年度大学教育・学生支援推進事業 大学教育推進プログラムに本学の『ファッション循環型社会対応教育の新展開』が選定されたことを契機に本格的に回収を始めました。その結果、学内で年間約300kgの残布があることが分かり、その活用法の検討を継続して行っております。その1つがKCSで製造機と共に展示しているエシカルザンプです。ラボ内に置いてある布は学内で回収した残布であり、衣類は衣類交換会で交換されずに残ったものです。これらを使用してイベントを実施しております。



地域連携

REGIONAL COLLABORATION

「オーガニックシティ木更津」をテーマに掲げまちづくりを推進している木更津市は、地元企業や団体との連携を図りながら、経済、環境、社会、それぞれの分野であらゆる取り組みを推進しています。

KCSは、開業当初から木更津市が主催する「きさらづ地域循環共生圏」の創造に向けた意見交換会の会議に定期的に参加し、行政や地元企業・団体の方々との意見交換を行っています。

2024年10月には、木更津市教育委員会からのご相談により、木更津市合同生徒会の取り組みに参画いたしました。中学校での出張授業に加えて、木更津市内中学校12校で回収する衣類の一部をKCSのコントリ先の一つでもある一般社団法人 サークュラー コットン ファクトリーへお渡しし、独自の技術により紙に生まれ変わらせることで、資源循環の仕組みや必要性を、中学生に伝えていきます。今後も木更津市および地域事業者や団体の皆様との連携を図りながら、地域に根差した取り組みも行っていきます。



木更津市立太田中学校全校生徒に向けた出張授業



服の回収BOXを設置する生徒たち

INTERVIEW 3

地域の未来をつくる 子どもたちのために KCS との連携で 環境への意識を育みたい

木更津市教育委員会 教育長 廣部昌弘さん



木更津市は、森や海といった豊かな自然に恵まれた地域であり、その資源を活用しながら地元の経済を活性化させていくことを目指しています。同時に環境負荷を低減し、持続可能な街づくりを行なっていくことも重要な課題であり、「地域循環共生圏」というテーマを掲げて企業や団体とも連携を図っています。そのなかで、地域の未来をつくっていく子どもたちへ向けた教育プログラムにも力を入れています。この取り組みの一環として、市内の公立中学校12校の生徒会長が、各校の活動について情報交換を行い、共通の課題や社会的諸課題に着目して協議する「木更津市合同生徒会」があります。ここで挙げられる議題を見ていくと、環境破壊や地球温暖化への危機感から、彼ら若い世代の環境への意識がとても高いことが分かります。気候変動などの地球規模のテーマから、給食の食べ残し、教室の使用電力など身の回りのことまで真剣に話し合っている姿は、木更津市が推進する環境教育が浸透し、

し、根付いていく可能性を感じさせるものです。また、彼らが強く関心を持ったテーマの一つが衣類の資源としての活用です。特にKCSでも実施されている衣料回収とそれらの活用方法の発信は、とてもリンクするものです。教育として、環境への意識を育てていくことは私たちの使命の一つですが、具体的にその循環を形にし、体感してもらうには、地域の企業の協力は欠かせません。加えて、KCSは、三井アウトレットパーク木更津という、彼らの生活圏にある場所で、より親しみやすい存在として、まさに「楽しみながら地球の未来に目を向けるきっかけ」になるものだと思っています。

これからは、時代を担う子どもたちの教育、意識改革がとても重要であると思います。KCSを始め、様々な企業や団体、そして地域の皆さんと一緒に、様々な課題の解決と新しい取り組みに踏み出していきたいと思います。



残反や端材を価値に変える。
店内装飾も無駄なく、サステナブルに。

残反をガーランドや店内サインに。



紙管も
端材を
使用!!

靴箱はPOPUP スタンドに。



端材をつかったクイズラリー。



子どもたちはクリエイター。
端材に息を吹き込む。



企業からご提供いただいたハザイを
キッズコーナーへ。ものづくりの背景
に触れながら自由にクリエイションす
る子どもたち。

着終わった後のその先を考える、服の回収拠点

衣服回収 COLLECTED CLOTHES

1,540

kg

KCSでは、常時服の回収を行っています。2023年6月の開業から現在に至るまでに、1,540kgの服を回収（2024年9月現在）。これらの服は、ストアパートナーであるクレサヴァ株式会社によって、肥料化するプロジェクトも進めています。その他ワークショップでの使用など別の活用方法も検討しています。1着の服を十分楽しんだ後のその先についても思いを巡らせていただくべく回収後の行方についても発信してまいります。

取り組み・活動の発信

CHANGE THE CYCLE REPORT

KCSで実践している活動のほか、ブランドパートナーや社会課題の解決に取り組むパートナーの活動など、新しいサイクルをつくるみんなの取り組みをレポートします。



REPORT 2024.06.28

帽子への情熱がたぎる、石田製帽のものづくりのバトン

岡山を拠点に帽子の製造・販売を手掛ける株式会社石田製帽。2024年7月3日から、KCSでPOPUPイベントを開催するにあたって、あらためて石田製帽が多くの人に愛されている理由や、その帽子づくりへの思いを、同社代表である石田紳士さんに聞きました。そこにはものづくりに真摯に向き合う姿勢から、自然にリサイクル可能なサイクルが生まれている様子が伺えます。

「国産である」というストーリーの前に、まずは品質

— 石田製帽は、長く帽子の製造と販を続けてきましたが、約20年前から自社ブランドを立ち上げて小売を始めました。今では全国にファンがいますが、自社ブランドをスタートしたきっかけを教えてください。

最初は創業的段階で、10年以上にわたって帽子づくりに関わってきました。長く制作現場の変わらぬ帽子の製造を手掛けていましたが、昔の中心の年代に合わせて100年代からファッションとしての帽子を解禁し始めました。特に、人気のアイテムである草帽から帽子は、とても長い歴史を誇って職人の高い技術があって生まれるもので、帽子づくりの長い歴史の中で、今こそ新鮮さが感じられています。



レポートはこちら



REPORT 2024.09.07

“繊維製品の廃棄率0.0%”の実現に向けた ユナイテッドアローズの新しいサイクルづくり

「着かき・上履感」をテーマに、国内外からセレクトしたブランドやオリジナルアイテムなど、幅広いジャンルを取り扱うセレクトショップを展開するユナイテッドアローズ（以下、UA）、同社では、2020年に企業としてのサステナビリティの目標を打ち出し、それを実現するための取り組みを続けてきました。

今回は、UAが企業の内外や顧客層で考え、具体性を持って実践している「繊維製品の廃棄率0.0%」を目指す活動、そして、KISARAZU CONCEPT STORE（以下、KCS）に参画した背景について、同社経営戦略本部サステナビリティ推進部の玉井康晴さん、アウトレット本部販管チームの鈴木健司さんに聞きました。

2030年までに繊維製品の廃棄率を0.0%へ

— UAでは、KCSに参画される以前から長きにわたって、自社のサステナビリティ活動に注力されています。具体的に、これまでどのようなことを行われてきたのでしょうか。

メディア掲載実績（一部）

ウェブメディア・雑誌

WWDJAPAN / FASHION PRESS / Fashionsnap.com / 装苑ONLINE / isuta / CREA / CLUEL /
 UOMO / MORE / ELLE / TRIP / LEE / Esquire / セブツ / 遊都総研 / CNETJAPAN /
 タイムアウト東京 / AdverTimes / R.E.port / ECzine / Pen online / BCN+R / FRONTROW /
 ELEMENIST / レッツエンジョイ東京 / 日経クロストrend / NIEW EDITION /
 BUSINESS INSIDER / AXIS / スブレ / NEWSCAST

地域メディア

Colocal / 千葉経済新聞 / ウィークリー千葉 / 千葉銀行社内報 / 月刊ぐるっと千葉7月号 / きざらぶレポート / きさこん

新聞・専門誌

読売新聞 / 日本経済新聞 電子版 / 産経新聞 / 東京新聞 / 織研新聞 / 織研 PLUS / 販促会議 / リサイクル通信 /
 月刊マネジメントスクエア / HOTERES / 流通ニュース / ダイヤモンドチェーンストア / リサイクル通信 / Shopping Tribe

テレビ

NHK 「あさイチ」「首都圏ネットワーク」「ニュースLiveゆう5時」
 日本テレビ 「ZIP!」「ヒルナンデス」「news every」「news zero」
 テレビ朝日 「グッド!モーニング」「中居正広のキャスターな会」
 TBS 「THE TIME.」「ノンストップ」「Nスタ」「アッコにおまかせ」「王様のブランチ」
 フジテレビ 「Live News α」「Live News イット」「サスティナ!〜こんなところにもSDGs〜」

ラジオ

J-WAVE 「BLUE IN GREEN」

視察・授業実績

- ・海外ファッションブランド協会視察ツアー
- ・フィリピンの団体ファムツアー視察
- ・キャセイパシフィック航空北東 ASIA LIFESTYLE 本部長視察
- ・千葉県高等学校教育研究会地理部会
- ・君津市役所消費者大学視察ツアー
- ・文化学園見学会（ワークショップ）
- ・文化服装学院授業@新宿
- ・文化学園大学ワークショップ@KCS
- ・海外ブランド多数

毎日纏う洋服をサステナブルに楽しみ続けられる環境を あらゆるパートナーとともに 作っていきたくて考えています。 CHANGE CLOTHES, CHANGE THE CYCLE.

KCSが実現したい未来に向けて、さまざまなパートナーと一緒にやりたいことがたくさんあります。新たなサイクルを生み出す実験場としてのKCSで、あらゆるチャレンジを行っていただければと思っています。皆様のアイデアもぜひお待ちしております。



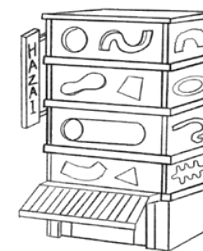
KCS サービスセンター

好きな服と長く付き合えるように、修理、メンテナンス、色の染め直し、リメイク、手放す際のリサイクルまで行うサービスを展開し、服との出会いから愛着を持って楽しむ時間、そして手放すまで、お付き合いしていきたい。



KCS サステナブルアワード

ファッション業界の社会課題の解決につながる取り組みを実践しているクリエイターを表彰。若手クリエイター創出に加えて、お客様、パートナー、社会と一緒に地球の未来についてサステナブルなライフスタイルを実践するきっかけを創出したい。



HAZAI Department

製造過程などでどうしても出てしまうはじっこに光をあてるデパート。はじっこから生まれる新たなクリエイションを楽しむ場所。ものづくりの背景をお伝えしながら、ものづくりに興味を持ち、ものづくりのサイクルについて楽しく考える場を提供したい。



みんなで考えるファッションの未来教室

小中学校の総合学習の時間に「ファッションの未来教室」開校。KCSの取り組み紹介やさまざまなブランドの方をゲスト講師に迎え、地球とファッションの未来について次の世代を担うみんなと楽しく考える授業を展開したい。